

2012年11月2日

ロバート・キャパ／ゲルダ・タロー 二人の写真家

Two Photographers :
Robert Capa Centennial / Gerda Taro Retrospective

2013年1月26日(土)～3月24日(日)

横浜美術館



世界で最も著名な写真家のひとり、「ロバート・キャパ」ことアンドレ・フリードマン (1913-54年) が生まれて来年でちょうど一世紀となります。しかしこの「ロバート・キャパ」という名が、当初フリードマンとドイツ人女性ゲルダ・タロー (本名ゲルダ・ポホリレ、1910-37年) の二人によって創り出された架空の写真家であったという事実は、あまり知られていません。

1934年にパリで出会い意気投合した二人は、1936年春に「ロバート・キャパ」という架空の名を使って報道写真の撮影と売り込みをはじめます。仕事が軌道に乗りはじめてほどなく、フリードマン自身が「キャパ」に取って代わり、タローも写真家として自立していきますが、その矢先の1937年、タローはスペイン内戦の取材中に命を落とします。タローの存在とその死は、キャパのその後の活動にも大きな影響をおよぼしたとされています。

本展覧会は、キャパとタローそれぞれの写真作品による二つの「個展」で構成されます。死後50余年を経てなお絶大な人気を誇るロバート・キャパと、その陰でほとんど紹介されることのなかったゲルダ・タロー。約300点にのぼる豊富な写真作品と関連資料によって二人の生涯と活動の軌跡を辿りながら、両者の深い繋がりや個性の違いを浮かび上がらせていきます。



左) ゲルダ・タロー《ロバート・キャパ、セゴビア戦線》1937年
ゼラチン・シルバー・プリント、ICP蔵、© ICP


右) 撮影者不詳《ゲルダ・タロー、グアダハラ戦線》1937年7月
ゼラチン・シルバー・プリント、ICP蔵、© ICP



[Part I] ゲルダ・タロー Gerda Taro Retrospective

ゲルダ・ポホリレ (のちのゲルダ・タロー) は、1910年にドイツ、シュトゥットガルトに生まれました。パリに出た翌年の1934年に出会ったアンドレ・フリードマン (のちのロバート・キャパ) とともに報道写真家を志し、公私にわたるパートナーとして活動をスタートします。折しも勃発したスペイン内戦の取材を中心に活動を重ねるなか、フリードマンは「キャパ」として、ポホリレも岡本太郎に由来するといわれる「タロー」というペンネームを使い、個別に活動するようになります。しかしタローは、そのスペインの戦場で27歳での早すぎる死を迎えます。

キャパとタローの写真は、その共同作業ゆえに、どちらが撮影したものかを同定するのが困難といわれてきましたが、近年の調査研究によって、タローの写真作品の全貌が明らかになってきました。本展は、そのタローの活動を日本で初めて総括的に紹介する機会となります。タローによるものと確認された、オリジナルプリントを中心とした写真83点と関連資料 (すべて国際写真センター [ICP] 所蔵) によって、彼女の短い生涯における活動、その写真家としての特質と業績を明らかにします。

企画監修:  International Center of Photography (国際写真センター、ニューヨーク)

This exhibition is made possible with leadership gifts from the Alex Hillman Family Foundation, George and Bicky Kellner, The John Annamaria Phillips Foundation, and Cornell Capa with additional support from generous foundation and individual donors.



ゲルダ・タロー
《海岸で訓練中の共和国軍女性兵士、バルセロナ郊外》
1936年8月 インクジェット・プリント、ICP蔵、© ICP

[Part II] ロバート・キャパ Robert Capa Centennial

1913年にハンガリー、ブダペストに生まれたロバート・キャパ (本名アンドレ・フリードマン) は、1930年代から54年の死に至るまで、報道写真家として世界中を駆け巡り、各地の戦争や人々の暮らしの様子をカメラに収め続けました。20年あまりの間に取材した5つの戦場で、命がけで撮影した幾多の衝撃的な写真群。同時にそのような激動の世界に生きる一般市民の姿を深い共感をもって捉えた、ウィットと情感に富む写真群。その二面性によって形作られているキャパの報道写真は、時代を超えて今日もおも私たちの心をとらえつづけます。

横浜美術館には、ロバートの実弟コーネル・キャパからの寄贈作品を中心に、キャパの写真193点が所蔵されています。その内容は、写真家としての本格的デビュー作となったコペンハーゲンでのトロツキーの演説を捉えた写真 (1932年) にはじまり、スペイン内戦の際の「崩れ落ちる兵士」(1936年) や第二次世界大戦の「Dデイ」のルポタージュ (1944年) などの記念碑的作品を含む戦争写真、最晩年の日本滞在期の風俗写真 (1954年)、そして地雷によって爆死を遂げる直前に撮られたインドシナ戦争の写真 (1954年) に至るまで、キャパの生涯の仕事網を網羅したものです。これらの作品群を、その個々の作品を世界に広めた雑誌などとあわせ一堂に展示し、報道写真家「ロバート・キャパ」の人生と活動、そしてその業績を振り返ります。



ロバート・キャパ
《ノルマンディー海岸、オマハ・ビーチ》1944年6月6日
ゼラチン・シルバー・プリント、横浜美術館蔵、
© ICP/Magnum Photos

1944年6月6日、通称「Dデイ」。その日の未明、キャパはアメリカ第一歩兵師団に同行し、オマハ・ビーチに向かいます。銃弾飛び交う上陸作戦の渦中、無我夢中で撮影し、持ち帰った100枚あまりのショットは、興奮した助手の現像ミスによりその大半が失われてしまいました。残されたわずか11枚のうちの1枚であるこの写真。現像ミスによって生じたという画像の「ブレ」も、緊迫した戦場のリアリティを逆に高めているように感じられます。

本展のみどころ**1 圧巻! キャパの生涯をたどる193点の横浜美術館コレクション**

横浜美術館ではロバート・キャパの作品を折々ご紹介してまいりましたが、全所蔵作193点を一堂に展示するのは、開館以来、初めての試みです。コレクションは、報道写真家としてキャリアをスタートさせた初期から、死の直前にシャッターを切ったインドシナ戦争まで、キャパの人生をたどることのできる代表作で構成されています。本展にて日本初公開となる作品も。

2 日本初! ゲルダ・タロー作品一挙公開

女性初の報道写真家といわれるゲルダ・タロー。「ロバート・キャパ」を創りだした人物でありながら、世界でもっとも著名な写真家のひとりであるキャパと比べ、作品はおろか、その存在すらほとんど紹介される機会はありませんでした。2007年に世界初となる個展「Gerda Taro Retrospective」が、ニューヨークの国際写真センター (ICP) にて開催され、その後、ロンドンなどへ巡回。本展ではICPの全面的協力を得て、「Gerda Taro Retrospective」で展示されたオリジナルプリントを中心とする写真83点を日本初公開いたします。

3 キャパ/タロー、2つの視点

数々の現場で行動を共にしたと言われるキャパとタロー。本展では、同一現場で二人の写真家が、それぞれの視点で撮影した写真もご覧いただけます。



ロバート・キャパ《セロムリアーノ付近、コルドバ戦線》1936年9月5日
ゼラチン・シルバー・プリント、横浜美術館蔵、© ICP/Magnum Photos

「崩れ落ちる兵士」の名で有名なキャパのこの作品は、スペイン内戦で撮影されました。行動を共にしていたタローが撮影したコルドバ戦線の作品も出品されます。ぜひ見比べてみてください。

トピックス

1 コレクション展でも、
報道写真を集

横浜美術館では、マグナム・フォト参加作家の作品をはじめ、多くの報道写真を所蔵しています。コレクション展写真展示室では「ロバート・キャバ/ゲルダ・タロー 二人の写真家」展に合わせ、アンリ・カルティエ＝ブレッソンや沢田教一など、内外の報道写真を特集展示いたします。この機会に、企画展、コレクション展を通じ、歴史の一場面を刻んだ報道写真の奥深さをご堪能ください。

2 「フォト・ヨコハマ2013」に参加！
「シーピープラス2013」と連携

日本における商業写真発祥の地として、横浜から写真・映像の魅力を発信する「フォト・ヨコハマ2013」に参加。その中核を成す、カメラと写真映像の情報発信イベント「シーピープラス2013」（2013年1月31日～2月3日、パシフィコ横浜にて開催）と連携し、写真を観る楽しさ、写真を撮る楽しさを皆さまにお伝えします。シーピープラス開催中の4日間はパシフィコ横浜と横浜美術館をつなぐシャトルバスも運行予定。また、シーピープラス会場に本企画展のブースを出展し、パネル展示や関連書籍の販売を行います。

※2013年1月31日（木）は、シーピープラス2013開催に伴い横浜美術館も閉館いたします。



オリジナルプリント

写真家が自分の作品として認めたプリントを指す。オリジナルプリントのなかでも、撮影された時期とはほぼ同時期にフィルムやデータからプリントされた写真はヴィンテージプリントと呼ばれる。一方、作家没後に著作権者によってプリントされた作品はエステートプリントと呼ばれる。

マグナム・フォト

1947年、ロバート・キャバの発案で、アンリ・カルティエ＝ブレッソン、ジョージ・ロジャー、デヴィッド・シーモアによって創立された、世界で最も著名な写真家集団。写真家の権利と自由を守り、主張することを目的としてニューヨークとパリに事務所がおかれた。以来、「人間、写真家としての独立精神」「報道と芸術の個性的融合」を反映させながら、バックグラウンドも国籍も違う多くの写真家が活動している。2007年に創立60周年を迎え、現在も50名を超える写真家が所属している。

ミニ
知識

国際写真センター

(International Center of Photography)

1974年、ロバート・キャバの実弟であるコーネル・キャバにより、ニューヨークに設立された世界を代表する写真専門の総合施設。展示スペースと共に、写真に関する学校や情報センターなどを有する。1950年代、兄ロバートなどの写真家が相次いで亡くなったことにより、写真作品の保存の必要性を感じたコーネルが1966年に設立した基金が前身となった。3,000名以上写真家の作品を所蔵し、今までに500を超える展覧会を開催した。

ゼラチン・シルバー・プリント

銀塩写真。銀塩を感光材にし、焼き付けされたプリントを指す。デジタル写真の対となる意味で、アナログ写真ともいわれる。

関連イベント

1. フォト・ヨコハマプレゼンツ
「渡部陽一トークショー」

出演：渡部陽一氏（戦場カメラマン）

聞き手：松永真太郎（横浜美術館学芸員）

日時：1月31日（木）13:30～15:00

会場：パシフィコ横浜 アネックスホールF204
（定員150名、申込み先着順）

※入場無料

※要事前申込

2. 記念講演会「青春のキャバ」

講師：沢木耕太郎氏（ノンフィクション作家、エッセイスト）

日時：2月3日（日）15:00～16:30（14:30開場）

会場：横浜美術館レクチャーホール（定員240名、先着順）

※入場無料

3. 学芸員によるプレレクチャー

日時：12月8日（土）15:00～16:30（14:30開場）

会場：横浜美術館アートギャラリー2（定員80名、先着順）

※入場無料

4. 学芸員によるギャラリートーク

日時：2月8日（金）、2月22日（金）、3月8日（金）

いずれも14:00～14:30

※参加無料（当日有効の観覧券が必要です）

5. 夜の美術館でアートクルーズ

閉館後の美術館で担当学芸員の解説を聴きながら、展覧会をご鑑賞いただけます。

日時：① 2月6日（水）、② 3月9日（土）

いずれも19:00～20:45

定員：各回30名、参加費4,000円（他日使用可能な観覧券含む）

※要事前申込、抽選

①は1月8日、②は2月4日 いずれも必着締切

6. 鑑賞ワークショップ「撮られるイメージ・創られるイメージ」

現実の事件をダイレクトに撮ったはずの報道写真。そのメッセージは、果たして「ひとつ」だけなのか。作品の時代背景をたどりながら、報道写真が私たちに何を伝えるのかを考えます。

日時：2月9日（土）13:30～16:30

対象：高校生以上

定員：20名

※参加無料（当日有効の観覧券が必要です）

※要事前申込、抽選（1月11日必着締切）

7. 上映会「Capa & Films」

日時：2月23日（土）、24日（日） いずれも14:30～18:00頃

会場：横浜美術館レクチャーホール（定員240名、先着順）

※入場無料

※上映内容、時間については当館HP（11月中アップ予定）をご覧ください。

【1の申込方法】

「シーピープラス 2013」オフィシャルウェブサイトより入場事前登録および、セミナー・イベント登録をしてください。
<http://www.cpplus.jp/>

【5、6の申込方法】

(1)当館HP：本展イベントページの「申込みフォーム」
(2)往復はがき

【往復はがき送付方法】

往信面にイベント名と開催日、〒、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号を、返信面に返送先を明記の上、
「キャバ/タロー展 イベント担当」宛（〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1）にお送りください。

お徳な情報

○セブンチケットの前売券でペア優待!

セブンチケットの前売券に、お得な一般ペア券が登場。一般前売券1,000円のところを、ペアで1,800円、当日観覧料よりも400円割引にてお買い求めいただけます!

○おとな&子どもの鑑賞優待

中学生以下の子どもと保護者の方が一緒に来館すると、子どもは無料、保護者の方は半額に!「鑑賞サポートシート」もご用意しております。
実施日: 2月9日(土)、10日(日)、11日(月・祝)、16日(土)、17日(日)、23日(土)、24日(日)

○シービープラス2013で割引!

展覧会会期中、シービープラス2013の入場パスまたは入場引換券をお持ちいただいたお客様は、当日一般観覧料より400円割引でご観覧いただけます!

※いずれも他の割引との併用はできません。

観覧料

一般	1,100 (1,000) 円
大高生	700 (600) 円
中学生	400 (300) 円 ※小学生以下無料

※()内は前売ならびに有料20名様以上の団体料金(要事前予約)

※毎週土曜日は、高校生以下無料(要生徒手帳、学生証)

※障がい者手帳をお持ちの方と同伴の方(1名)は無料

※本展チケットでご観覧当日に限り横浜美術館コレクション展もご覧いただけます

※チケットは、横浜美術館(前売はミュージアムショップ)、セブン-イレブン店内のマルチコピー機「セブンチケット」(セブンコード:019-994)にてお買い求めいただけます(前売は1月25日[金]まで販売)

※リピーター割引: 観覧済みの当館企画展有料チケットをご提示いただくと、団体料金でご覧いただけます(観覧済み展覧会最終日から1年間、1名様1回限り有効)

※その他割引料金については別途、お問合せください



ロバート・キャバ《東京》1954年4月
ゼラチン・シルバー・プリント、
横浜美術館蔵、
© ICP/Magnum Photos

1954年4月13日、キャバは毎日新聞社からの招きで、はじめて日本を訪れます。東京駅から熱海に向かう汽車を待つ間も、キャバはホームを行き交う人々の様子を写しました。どの国であっても、キャバのまなざしはそこに暮らす市井の人々に向けられ、そしてその多くは子どもたちでした。熱海から関西を周遊し、東京に戻ったキャバに、突然「ライフ」誌からインドシナ戦争の取材要請が入ります。その後の予定をキャンセルし、19日間で日本滞在を切りあげたキャバは、死地となるインドシナ(現ベトナム)へと向かいました。

基本情報

ロバート・キャバ／ゲルダ・タロー
二人の写真家

Two Photographers :
Robert Capa Centennial / Gerda Taro Retrospective

2013年 1月26日(土)～3月24日(日)

休館日 木曜日(ただし1月31日は開館)
開館時間 10:00～18:00(入館は17:30まで)
会場 横浜美術館(〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1)
お問い合わせ TEL: 045-221-0300 FAX: 045-221-0317
http://www.yaf.or.jp/yma/

主催: 横浜美術館 [横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント 共同事業体]
朝日新聞社

企画監修 [ゲルダ・タロー]: ICP (国際写真センター、ニューヨーク)

後援: 横浜市、NHK横浜放送局

特別協力: マグナム・フォト東京支社、シービープラス2013

協力: 日本航空、みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社



ロバート・キャバ《ゲルダ・タローと共和国軍兵士、コルドバ戦線》1936年9月
ゼラチン・シルバー・プリント、横浜美術館蔵、© ICP



ロバート・キャバ
《デンマークの学生に講演するレオン・トロツキー、コペンハーゲン》
1932年11月27日 ゼラチン・シルバー・プリント、横浜美術館蔵、
© ICP/Magnum Photos

プレスリリースお問い合わせ

横浜美術館 広報担当(宮野、藤井、石神) TEL. 045-221-0319 FAX. 045-221-0317 E-mail: pr-yma@yaf.or.jp